# 令和８年度第２回一関市健康づくり推進協議会　会議録

１　会 議 名　令和８年度第２回一関市健康づくり推進協議会

２　開催日時　令和８年９月30日（水）午後１時30分から午後２時44分まで

３　開催場所　一関保健センター多目的ホール

４　出 席 者

⑴　委　員　佐藤みさ子委員（会長）、佐藤律子委員、三浦富久子委員、村上哲委員、
小野寺佳美委員、森谷俊樹委員、小山奈美子委員、平野和彦委員、
佐々木裕子委員、畠山憲一委員、千葉真美子委員、熊谷惠子委員、
松川栄一委員、畠山とき子委員、金森公子委員、内田テルコ委員、
白石理恵委員

※欠席者　本多聡委員、吉川眞理子委員（副会長）、菅原むつみ委員

⑵　事務局　佐藤和幸健康こども部長、高橋恵保健師長、
佐藤幸一健康こども部次長兼健康づくり課長、坂本寿究子こども家庭課長、
大内純子東部健康推進室長、菅原有紀北部健康推進室長、
千葉英顕健康づくり課長補佐兼地域医療係長、
伊藤睦哲健康づくり課長補佐兼健康増進係長、
伊東幸子健康づくり課長補佐兼高齢者健康支援係長、
鈴木園恵こども家庭課長補佐兼おやこ健康係長、
菊池文健康づくり課健診指導係長、佐藤純子健康づくり課副主幹、
大瀬裕子健康づくり課副主幹、畠山陽介健康づくり課主任保健師

５　議　　題

⑴　報告

①　令和７年度保健事業実績について

⑵　意見交換

①　いちのせき健康づくり推進計画（仮称）ご意見・提案・修正点等について

②　いちのせき健康づくり推進計画（仮称）案について

③　いちのせき健康づくり推進計画（仮称）【概要版】案について

④　その他

６　公開・非公開の別　公開

７　傍聴者　１人（うち報道機関１人）

８　佐藤会長挨拶

令和８年度第２回健康づくり推進協議会開催に当たり、一言御挨拶申し上げます。本

日は御多忙のところ御出席いただきありがとうございます。委員の皆様におかれましては、日頃から、それぞれの分野で健康づくりの推進に御協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、前回の会議では、新たな健康づくり推進計画の素案について、委員の皆様から多くの御助言や御意見をいただきありがとうございました。事務局においては、皆様からお寄せいただいた内容を原案に盛り込むとともに、市民の皆様に身近で、実現可能性の高い内容となるよう、見直しを行ったとのことです。

今回は、その見直しを行った計画の原案を御提案させていただきますので、委員の皆様には、改めて御意見などをいただきたく存じます。

新たな計画案の基本理念である「笑顔あふれる誰もが健やかに暮らせるまち」及び一関市民の健康寿命の延伸の実現に向けて、誰一人取り残さない健康づくりを進めていくため、委員の皆様には忌憚のない御発言をどうぞよろしくお願いいたします。

9　報　　告

⑴　令和７年度保健事業の実績について

資料に基づき事務局から報告を行った。以下、質疑応答等。

委　員　予防接種は、私たちが子育てしていた時代とは全く違った５種混合や４種混合もあるが、どのような予防接種か教えてほしい。

事務局　５種混合は、ヒブ、ジフテリア、百日せき、破傷風、不活化ポリオの混合ワクチンで、４種混合は、ヒブを除く、ジフテリア、百日咳、破傷風、不活化ポリオ、３種混合は、ジフテリア、百日せき、破傷風である。令和６年４月から５種混合が開始となった。３種混合については海外で予防接種を受けた人たちなどで、不足分のワクチンを補充する形で行っている。

委　員　５種混合は、１回の接種で５か所に注射するのか。

事務局　５種混合は、５種類のワクチンを一つにまとめたものである。それを４回接種するということになる。

委　員　18ページの乳幼児健診で、受診率が100％以上というのはどうしてか。

事務局　乳幼児健診の対象月齢は幅広く、年度を越えて受診する方がいる。対象は４月から３月生まれだが、対象年度を繰り越して受ける方もいることから、受診者のほうが多くなり受診率が100％を超えることがある。

10　意見交換

⑴　いちのせき健康づくり推進計画（仮称）ご意見・提案・修正点等について

⑵　いちのせき健康づくり推進計画（仮称）案について

⑶　いちのせき健康づくり推進計画（仮称）【概要版】案について

資料に基づき事務局から説明を行った。以下、質疑応答等。

委　員　12年間という計画期間は、長すぎるのではないか。その理由を確認したい。

事務局　健康いちのせき21計画（第二次）でも10年という計画期間で取組を進めてきた。今回の12年間という期間は国や県の12年間に合わせて設定している。まず10年間しっかりと取り組み、その評価をその後２年間で行い、次の計画を策定していくという考えである。長い計画となるので、令和14年度に中間評価を行う予定である。計画の進捗状況の確認や、目標値を改める点などの検討を中間評価で行うこととしている。

委　員　中間評価の令和14年度までは評価しないのか。

事務局　アンケートの実施は難しいが、各検診の結果など数字として確認できるものは、毎年度数値を積み上げながら一関市健康づくり推進協議会や一関市食育推進協議会で進捗状況を報告し、皆様から御意見や御提案をいただきながら取組を進めていく。

⑷　その他

委　員　一関市の80歳以上の人の割合は、人口の14％で約１万4,000人、100歳以上が約170人と聞いている。その当事者の一部には「年だから」と自分で決めつけてしまう傾向がある。問題はやろうとする意欲と冒険心だと思う。また、こころの健康を育むためには、幼少期の頃から楽しい体験を重ねることで、人とのつながりも生まれやすくなり、地域づくりにもつながると考えている。そのような施策を市からの補助金を活用しながら行っている。

事務局　委員からの意見があった「幼少期からの楽しい体験」についてだが、10月３日に「こどもまんなかアクション・リレーシンポジウム」を開催する。是非皆様にも参加していただきたい。どのように取り組んでいけば、社会全体でこどもや子育て中の方々を応援していけるのかを、トークしながら考えてみようというイベントになっている。

委　員　幼少期の時からのいろいろな楽しい体験が、人と人がつながっていくことに結び付く。今住んでいる場所に対するこころを育んでいくことになると思う。市全体でそういう取組を進めていかなくてはいけないと思う。他の地域でも開催するというような考えはあるか。

事務局　他の地域でも盛り上げていかなければいけないと思う。

今回の計画策定においても、連携した取組を視野に入れて、庁内の社会教育や生涯学習、スポーツ振興などを担当している部署とヒアリングや打ち合わせを行いながら計画策定を進めてきた。これから策定のための庁内会議を行う予

定である。ただ、行政だけの取組では、目標を実現することが難しいため、市民、地域、職場など幅広い取組で、体だけでなくこころの健康も伸ばしていくことにつながっていけばと考えている。

11　担当課　健康こども部健康づくり課